令和３年２月９日

研究推進部　担当　佐々木

令和２年度　ユネスコスクール NISHITA　校内研通信 No。５

４年生研究授業　図画工作科「　荻窪リニューアルプロジェクト～みんなにやさしい町づくり～　」

４年３組

◆本時について

評価規準：自分たちの作品の伝えたいこと、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。

〇何を教えるのか：やさしい町にするために、あったらいいなと思う場所や施設・設備を考え、造形物として表現すること

〇どのように解決していくか：・自分の使いたい様々な素材や使える道具を選ぶ
・グループで俯瞰したり、意見交流をしたりする

〇どのように教えるか：・自由な発想を支える、様々な素材の用意と道具の用意
・意見交換のしやすい場の工夫（グループ）
・グループごとの交流時間の設定

〇どのような力を育てたいのか：
・自分の思いを造形物（作品）として表現しようとする力
・作品と対話し、また作品をもとに他者と対話し、よりよくしようとする力
・多方面からの視点やものの見方を広げる力

◆協議会での意見　授業を振り返る視点

〇国語分科会より/・コマは有効であった。対話から改善策が生まれていた。・材料や質に応じて、どう作るか、まで話ができていた。・共通の指導ができないから、指導側が大変な部分もあるのでは。・10時間以上の熱量をもったのは総合的な学習の耕しがあったから。
・社会的弱者の困りがないようにという発想→それを超えた発想までには至っていないが今回の目的は一人一人ののびのびとした発想は目的でないため、別の単元でできればよいのでは。
〇理科分科会/夢物語になりがちな題材だが、具体物を目の前にすることで、葛藤を感じながら新しいものを生み出そうとしていた。・今後、福祉課の方と相談したり、ミニカメラを使って映像を残したりするなどして西田遺産として残していってはどうか。・柔軟な活動を支えているのは図工の年間指導計画を十分に理解し、どの単元でどのような資質能力を育成するか把握できているから。
〇社会分科会/・コマを使うことで、俯瞰して気付けないことにも気付けていた。・学んできたことをこの町でどう生かせるか具現化できていた。・区の担当者と、どうして実現化できないのか実際の話を聞いてみる。・ESD報告会があったら、妊婦さんの立場から意見が聞けるのでは。ビデオ通話を用いて話が聞けるとよい。
〇図工分科会/・図工的な発想と現実的な総合の視点で考えさせることができた。・子供たちが意欲的に取り組むことができた。・実際にやってみたが、そこに近づくために計画を（用紙の大きさなど）考える必要があった。・なんでも横断的にやるのではなく、ピンポイントで取り組めるようにできるとよい。

◆本研究授業を振り返って―研究主任より―

事前授業のために図工室に入ると、子供たちの熱気で圧倒されました。作りたい、表現したいという思いが、みなぎっていました。もちろん図画工作という教科の魅力もさることながら、そこを支える総合的な学習の時間における積み重ね、この社会を変えていきたいという子供たちの思いが、図工室にあふれていたのだと思います。制約の多い中で準備を進めて来られた４年生の先生方、図画工作分科会の先生方の熱心さが子供たちに伝わったのではないでしょうか。今年度は教科の専門性と総合の関連の中で、子供たちの資質能力を高めていくことが研究の目的です。それぞれの良さを引き出しつつ、主張すべきことはしっかりと主張する、これが高い専門性に担保されるからこそ、総合において育成すべき資質能力もより成長すると考えます。その点で、図工専科先生の存在が、本授業実践において不可欠なものであったと考えます。図工専科の先生のお話より①学びのＳＴＥＡＭ化　②学びの自立化・個別最適化　③新しい学習基盤づくり（ＩＣＴ環境、制度環境、学校、教員養成）のいずれも、ESD 推進に必要不可欠ものであると考えます。

４年生の先生方、図画工作科分科会の先生方、ありがとうございました。